

2007年グアテマラ選挙と選挙監視団  
—選挙監視活動の効果と課題に関する一考察—

浦部 浩之

The 2007 General Election in Guatemala  
and Electoral Observation Missions:  
A Study on the Effectiveness and Challenges  
of Electoral Observation

URABE Hiroyuki

In the 2007 Guatemalan presidential election, Álvaro Colom was elected by a narrow margin, establishing first center-left government in 50 years. His victory was largely due to the 2004 amendments to the Election and Political Parties Law, which expanded the number of polling stations and registered voters and reflected the will of rural residents in voting. The international and national electoral observation missions, such as the Organization of American States (OAS), European Union (EU) and Observador Electoral, unanimously assessed that the election had been held fairly and calmly, although they noted there were problems to resolve: the widespread violence and the unclear funding managed by political parties. Since the 1990s, the methodology of electoral observation had been gradually refined and progressed in the international community. In the Guatemalan election in 2007, the OAS mission contributed not only to observe electoral process but also to encourage the election to be carried out successfully, through the intermediating all parties signing the commitment to accept and recognize official result announced by the Supreme Electoral Tribunal (TSE). Mirador Electoral, which deployed more than 4000 national observers in all the territory, conducted a quick count i.e. sample counting of the votes, proving that the results announced by the TSE were credible and genuine. In sum,

electoral observation can contribute to promoting the realization of democratic elections. On the other hand, another strategy is necessary to establish democratic behavior and culture in the political arena. In Guatemala, the problems of violence continue to exist, and in 2023, prosecutors attempted to declare void the election result, thus incurring criticism for trying to launch a coup d'état.

## はじめに

本稿は、2007年にグアテマラで実施された選挙とそのときに展開した選挙監視団の活動状況を分析し、選挙監視活動が民主主義の強化に果たす役割や限界について考察することを目的としている。国際的な選挙監視活動は1990年代初頭よりその件数と規模が拡大し、世界各地での公正な選挙の実現に一定の貢献をしてきた。監視活動の手法や技術も、経験と工夫を重ねるなかで洗練され体系化された。ただ他方で選挙監視が広く認知されるのにもない、選挙結果にお墨付きを与えることを目的とする偽装的な監視団が組織されたり、選挙監視の実施の是非が外交的な駆け引きの材料として用いられたりする事例も現れた。筆者はこれまで8カ国で計12回、選挙監視団に参加した経験があるが、こうした事例のいくつかを目の当たりにしてきた<sup>1</sup>。

本稿で取り上げるグアテマラ選挙が行われた2007年ころは、まだ選挙監視の「悪用」事例は今ほどには目立っておらず、選挙監視活動への信用と期待は高かった。選挙監視は、1980年代に民主化が相次いだラテンアメリカ諸国とポスト冷戦期に複数政党制の導入が相次いだ旧ソ連・東欧諸国を舞台に、国連、米州機構（OAS: Organization of American States／西語表記はOEA: Organización de los Estados Americanos）、欧州安保協力機構（OSCE: Organization for Security and Co-operation in Europe）によってその取り組みが始まり、2005年、これら3つの機構を含む計21の国際機構やNGOにより「国際選挙監視の原則に関する宣言と国際選挙監視員の行動規範」（United Nations Secretariat

---

1 たとえば2015年のベラルーシ大統領選挙では、ロシアを中心とする独立国家共同体（CIS）の選挙監視団が選挙の正当性を主張し、民主主義の基準を満たしていないとする欧州安保協力機構（OSCE）の選挙監視団の見方を非難した（浦部 2020: 22-23）。

et.al. 2005) として体系化されるに至った。グアテマラにおいても後述のとおり1995年以降、OASなどが毎回の選挙で一定規模の選挙監視団を派遣し、公正な選挙の実現を支え、選挙後には民主主義の強化のための提言を行ってきた。2007年の選挙が過去にない高い水準の政治参加のもと、公正かつ平穩理に実施されたことには、こうした国際社会の継続的な努力が寄与していた。

筆者はこの2007年グアテマラ選挙の際、日本政府からの派遣でOASの選挙監視団に参加しており、その経験の一部は浦部（2008）にも記している。ただ同稿では紙幅に制約があり、また選挙そのものを主題としていて選挙監視活動については必ずしも十分に論じきれておらず、OASが2009年に正式承認した選挙監視団の最終報告書やその他の監視団の報告書の内容も反映できていなかった。本稿ではこうした点も補いつつ、2007年グアテマラ選挙とそのときの選挙監視活動についてあらためて考察したい。

## 1. 2007年グアテマラ選挙の分析

### （1）2007年選挙の概要と結果

はじめに2007年グアテマラ選挙の概要と結果について確認しておこう<sup>2</sup>。

グアテマラでは1986年に軍政から民政への移行が実現し、それ以降、定期的に選挙が実施されている。2007年選挙で対象となった公職は①正・副大統領、②国会議員（一院制、158議席）、③市長・市会議員（全国332市）であり、その任期はいずれも4年であった。そのうち国会の議席は全国区31、地方区127に分かれており、有権者はそれぞれに投票するため、一人の有権者が投じる票は合計4枚となる。有権者はすべての選挙で政党を選んで投票する。大統領選の候補者は、各政党が正・副大統領をペアで擁立している。国会議員選は、全国区・地方区とも拘束名簿式比例代表制がとられている<sup>3</sup>。市長・市会議員選では最多得票の政党が市長の枠を獲得し、市会議員は各党の得票率に応じて議席が配分されることになっている（全国合計3190議席）。2007年選挙で擁立され

---

2 本章の2007年グアテマラ選挙に関する記述には浦部（2008）とかなりの重複があるが、本稿全体の考察に欠かせないため、いくつかの点を加筆するかたちであらためて論じることとする。

3 22ある県を単位として設定（グアテマラ県のみ首都区と県区の2つに分けて設定）されている国会議員選の各地方区の定員は、人口規模に応じて1から19まで幅がある。定数1の1県（エルプログレソ県）は、厳密に言えば小選挙区制となる。



写真1 投票所のテーブルに並べられた投票用紙（筆者撮影）

いちばん手前が大統領・副大統領選挙の用紙（選挙の種別ごとに色分けがなされている）

た候補者は、これらすべてを合わせると2万9364人にのぼった（OEA 2009: 25）。

グアテマラでは多党が乱立しており、2007年選挙でも14党が大統領候補を擁立した。もっとも、有力候補は中道左派の希望国民連合（UNE: Unidad Nacional de la Esperanza）党首のコロム（Álvaro Colom）、右派の愛国党（PP: Partido Patriota）党首のペレス＝モリナ（Otto Pérez Molina）、そして政権継続を狙う国民大同盟（GANA: Gran Alianza Nacional）が擁立したジャマテイ（Alejandro Giammattei）の3人に絞られており、選挙戦は必死に逃げきりを図るコロムを後者2人が追いつける展開となった。結果は表1のとおり、9月9日の第1回投票で28.25%を得票したコロムと23.54%を得票したペレス＝モリナの上位2人が決選投票に進み、11月4日の選挙でコロムがペレス＝モリナを得票率52.81%対47.19%の僅差で振り切った<sup>4</sup>。一方、国会議員選では、コロムの率いるUNEが52議席を獲得して第1党となり、次いでGANAが37議席、PPが29議席を獲得した（後掲の表8も参照）。

なお、直近（2003年）の選挙で最大議席を獲得していた極右のグアテマラ共和戦線（FRG: Frente Republicano Guatemalteco）は汚職や腐敗のイメージが



表1 2007年グアテマラ大統領選挙の結果

	第1回投票		決選投票	
希望国民連合 (UNE)	926,236	28.25%	1,449,533	52.81%
愛国党 (PP)	771,813	23.54%	1,295,108	47.19%
国民大同盟 (GANA)	565,017	17.23%		
社会行動センター (CASA)	244,373	7.45%		
グアテマラ共和戦線 (FRG)	239,204	7.30%		
国家主義変革連盟 (UCN)	103,695	3.16%		
グアテマラのための出会い (EG)	100,365	3.06%		
統一党 (PU)	95,280	2.91%		
国民進歩党 (PAN)	83,369	2.54%		
グアテマラ国民革命連合 (URNG-MAIZ)	70,208	2.14%		
民主連盟 (UD)	24,893	0.76%		
新国民同盟 (ANN)	19,640	0.60%		
真正統合発展 (DIA)	18,395	0.56%		
グアテマラ・キリスト教民主党 (DCG)	16,461	0.50%		
有効投票	3,278,949		2,744,641	
白票	129,184	3.57%	40,647	1.41%
無効票	207,734	5.75%	101,918	3.53%
全投票数	3,615,867		2,887,206	
有権者数	5,990,029		5,990,029	
投票率 (全投票数/有権者数)		60.36%		48.20%

(出所) 最高選挙管理委員会 (TSE) 公式発表 (2007年9月26日/11月8日) をもとに筆者作成

たり、2007年選挙では第4党 (14議席) に転落した。もっとも軍政時代に数々の人権侵害を犯したことで悪名高いリオス=モント (José Efraín Ríos Montt) 元大統領・将軍は、同党の全国区名簿1位で悠々と議席を確保し、健在ぶりを見せつけた。リオス=モントはかねてより大統領の座を狙っていたが (2003年選挙では決選投票まで進出)、2007年選挙では議員職を選んだ。人権問

- 4 コロムが大統領選挙に挑むのは3度目であった。初めて選挙に臨んだ1999年は、旧ゲリラ勢力の流れをくむグアテマラ国民革命連合 (URNG: Unidad Revolucionaria Nacional Guatemalteca) を中心とする左翼連合の新国民同盟 (ANN: Alianza Nueva Nación) から出馬し、3位につけた。2003年選挙では自ら立ち上げたUNEから出馬し、決選投票まで進んでいた。

題に関わる訴追や国外からの引き渡し要求を逃れることに狙いがあったとみられている。

## (2) 選挙の争点と勝敗を決した要因

2008年1月14日に発足したコロム政権は、1950年代に成立したアルベンス(Jacobo Árbenz)政権(1951年発足、1954年クーデタで崩壊)以来、約50年ぶりの中道左派政権となった<sup>5</sup>。選挙の争点は、具体的には何であったのか。

図1は2007年1月に実施された世論調査の結果である。グアテマラの抱える最大の問題は何かという問いに対し、じつに55%以上の市民が「暴力」(violencia)を第一にあげている。国家文民警察(PNC: Policía Nacional Civil)によれば国内での殺人事件による犠牲者は2005年に5338人、2006年に5885人、2007年上半期(1～6月)に2972人にのぼり(うち42%が首都圏に集中)、人口10万人当たりの殺人の犠牲者46人は当時ラテンアメリカで最悪となっていた(OEA 2009: 16)。

選挙戦でペレス＝モリナがコロムを追い上げ、後述のとおり首都では勝利を収めたのもこれに関連している。つまり「断固たる対応」(¡Mano dura!)をキ

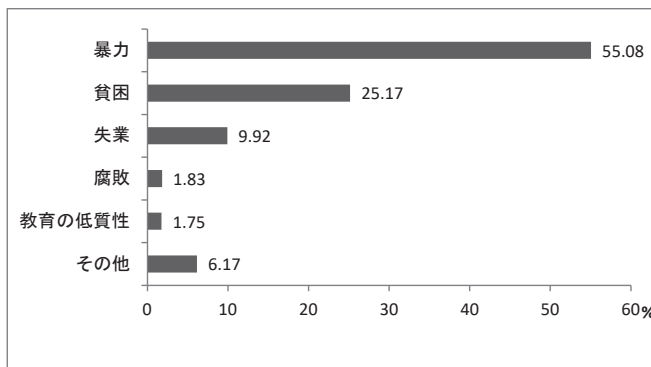


図1 世論調査：グアテマラの抱える最大の問題(2007年1月4～10日調査)

(出所) *Prensa Libre*, 14 de enero de 2007, p.3.

5 コロムは大統領就任演説で「50年間で初めて社会民主主義政府への変化がグアテマラにやってきたのです」、「今日から、貧しい人たち、そして機会を持つことのなかった人たちの特権が始まるのです」(Colom 2008)と述べている。

ヤッチフレーズに掲げ、元軍人としての頼もしいイメージを醸し出しつつ治安対策を訴える彼の選挙戦術は、犯罪率の高い都市部の有権者を強く惹きつけることになった。一方、候補者選定にもたついたGANAが最終的にジャマティを擁立したのにも、無法地帯化していたパボン刑務所の浄化作戦に成功した(2006年9月)<sup>6</sup>という刑務行政長官としての彼の実績が世論受けするからであった。

もっとも選挙戦は必ずしも政策論争を軸に展開したわけではなかった。目立ったのは誹謗中傷合戦であり、たとえばペレス＝モリナ陣営は、コロムと麻薬資金とのつながりに関する疑惑を繰り返し喧伝した。コロムが直近(2003年)の選挙で当時のポルティジョ(Alfonso Portillo)<sup>7</sup>政権の官僚2人から選挙資金の提供を受けたとの疑惑(Mack 2008: 19)は、とくに槍玉にあげられた。他方、コロム陣営は、ペレス＝モリナが軍人として果たしてきた負の実績について強調し、農村部の住民の不安を煽った。グアテマラでは1962年から1996年までの左翼ゲリラと政府・軍との内戦で20万人にのぼる犠牲者を出しており、農村部には軍への嫌悪感が根強かった。

2007年選挙でコロムが勝利したことの大きな要因として、都市部ではなく農村部の住民の意思がより強く選挙結果に反映されたことがある。グアテマラでは民政移管以来、首都を制する候補が必ず大統領に当選していた。しかし2007年選挙でペレス＝モリナは、決選投票で首都では65.02%、それを含むグアテマラ県全体でも59.50%を獲得したものの、他の21県のうち20県でコロムの得票を下回り、勝利をつかむことができなかった。

コロムの勝利を支えたのが、選挙参加の拡大である。グアテマラでは18歳以上の国民が選挙権を持つが、それを行行使するためには有権者登録をしなければならない。その登録率が、表2に示されているとおり選挙のたびに上昇し、2007年選挙では88.7%にまで達したのである。そして投票率も上昇し、2007年

---

6 パボン刑務所では10年以上にわたり、所内の受刑者間で暴行・恐喝、麻薬・密造酒製造などが行われ、また所外の犯罪組織と結託して誘拐や麻薬密売などの犯罪拠点となっていた。政府は約3000人の軍・警察を投入し、受刑者約1650人を拘束して別の刑務所に移送した。

7 ポルティジョは在任中の公金横領、不正蓄財、マネーロンダリングなどの嫌疑があり、大統領退任1ヵ月後の2004年2月、メキシコに出国し、その後の訴追に基づいて2008年10月、メキシコからグアテマラに引き渡された。ポルティジョは保釈中であった2010年1月、逃亡を試みて逮捕された。

表2 グアテマラにおける有権者数と投票者数の推移

		A	B	B/A	C	C/B
		有権者資格 年齢人口	有権者数 (登録者数)	登録率 (%)	投票者数	投票率 (%)
1985年		3,569,417	2,755,590	77.2	1,800,324	65.3
1991年	第1回	4,414,594	3,204,995	72.6	1,808,718	56.4
	決選				1,450,603	45.3
1995年	第1回	5,205,595	3,711,589	71.3	1,737,033	46.8
	決選				1,368,828	36.9
1999年	第1回	5,491,064	4,458,744	81.2	2,397,212	53.8
	決選				1,735,096	38.9
2003年	第1回	5,997,213	5,073,282	84.6	2,937,169	57.9
	決選				2,281,963	45.0
2007年	第1回	6,756,609	5,990,029	88.7	3,615,867	60.4
	決選				2,887,206	48.2

(出所) 1985～2003年については *Infopress Central America Report*, vol.34 no.42, p.5. を参照。  
2007年については最高選挙管理委員会 (TSE) 発表をもとに筆者加筆。

には第1回投票、決選投票とも、1991年以来で最高を記録した。

そしてこうした投票拡大を大きく支えたのが、選挙機会の拡大（投票の便宜向上）<sup>8</sup>であった。つまり、グアテマラでは2004年の選挙・政党法（LEPP: Ley Electoral y de Partidos Políticos）の改正により、有権者500人以上の集落には選挙管理委員会（JRV: Juntas Receptoras de Votos）が設置されることとなった。これにともない、2003年選挙では1262であった投票所（centro de votación）の数は2007年選挙では2060へと大幅に増え、投票受付所（mesa）（小規模な集落を除き、多くの投票所では有権者数に応じて複数の投票受付所が設けられる）の数も8885から1万3756になった。投票所の増設が行われたのは、国全体の75%に当たる248市に及び、また、有権者名簿を更新もしくは新規登録した有権者は125万2799人にのぼり（OEA 2009: 11）、農村部を中心に多くの市民がこの制度改革の恩恵に浴した。

### （3）リゴベルタ・メンチュウの敗北

ところで、2007年大統領選挙における注目候補の一人に、グアテマラのため

8 現地ではdescentralización、すなわち分権（分散）と称されていた。



写真2 票を投じる先住民系の女性（筆者撮影）

2007年選挙で農村部を中心に投票所と新規登録の有権者が大幅に増えた

の出会い（EG: Encuentro por Guatemala）から出馬した先住民運動家でノーベル平和賞受賞者のリゴベルタ・メンチュウ（Rigoberta Menchú）がいた。しかしメンチュウは前掲の表1のとおり、全候補者中7位、得票率わずか3.06%で惨敗した。

メンチュウ敗北の理由としてはいくつかの指摘がある。グアテマラでは先住民がいくつかのエスニック集団に分かれ、また地方政治が政治の主たる闘争の舞台として定着しており（狐崎 2007: 16）、先住民運動が全国規模で組織化されにくい。このことはメンチュウの票が伸び悩んだことの1つの要因としても解釈できる。

また、メンチュウはけっして先住民系市民の間で人気があるわけではなかった。メンチュウは2007年2月、新党ウィナック（WINAQ: 平衡と統合）を立ち上げ国政参入を目指したが、政党登録をするには遅すぎた。このメンチュウを大統領候補に担ごうとしたのがEGと旧ゲリラ勢力の流れをくむグアテマラ国民革命連合（URNG: Unidad Revolucionaria Nacional Guatemalteca）であった。結局メンチュウはEGとの間で国会議員と市長の候補を50%ずつ分け合

うことで合意し、副大統領候補にコーヒー生産者協会（ANACAFE: Asociación Nacional del Café）の前会長を据えた。そして「平和のシンボル」としての自己のイメージを強調し、幅広い勢力からの支持調達を狙って穏健な政治姿勢を打ち出した。

しかし、これは先住民を惹きつけることにはならなかった。多くの先住民はラディノ（混血系）から先住民への接近について、真の狙いは先住民の取り込みにあるのではないかと疑念を抱いたのである。さらに、ウィナック幹部の多くは和平担当大使を務めたメンチュウを含め、前政権に関与したインテリ先住民であった。先住民の間では内戦に巻き込まれたという心理的後遺症から、右派や軍だけでなく左派や先住民エリートへの嫌悪感も強かった。要するに、メンチュウと自己とを同一視しないのである。

なお、これに加えて資金力も1つの重要な要素であろう。主要政党に比べてEGが選挙戦に投入した資金の規模は格段に小さく（後掲の表11も参照）、メンチュウ陣営が準備不足であったのは明らかであった。

## 2. 米州機構（OAS）による選挙監視活動

### （1）OASによる選挙監視団派遣の実績

すでにふれたとおり、OASはラテンアメリカにおける選挙監視活動の主要な推進役であった。ミドルブルークは1990年代にラテンアメリカで見られた選挙監視活動の変化として、次の2つをあげている。1つは、投開票日当日を中心とする短期間の監視から、選挙をめぐる政治状況全体を評価する長期的な監視へと変化したことである。その過程で活動の幅も拡充され、選挙監視活動の技術と信頼性も向上した。もう1つは、国内の団体が選挙監視活動を大規模に行うようになり、選挙の透明性がいっそう増したことである。その過程で選挙監視活動に関する国境を越えた相互の学習の機会や国際機関との連携も増えた（Middlebrook 1998: 8-10）。

表3は、OASがこれまでにグアテマラで実施した選挙監視活動である。ハイドは国際的な選挙監視の起源はOASによる1962年のコスタリカにおける活動としているが（Hyde 2011: 56）、グアテマラの場合、それから8年後の1970年選挙の際、政府がOASに対し選挙の技術的支援のために派遣団を招待したとの記録がある<sup>9</sup>。ただ、当時はまだ選挙監視についての確立した概念は存在していなかった。記録の整備も不十分であり、辛うじて1990年までの4回の選

表3 米州機構（OAS）によるグアテマラでの選挙監視活動

		監視員数		監視員数	
1970年	大統領選挙		不明		
1980年	地方選挙		不明		
1984年	制憲議会選挙		2		
1990年	大統領選挙		不明		
1995年	大統領選挙	第1回	52	決選	60
1999年	憲法改正国民投票		30		
1999年	大統領選挙	第1回	76	決選	77
2003年	大統領選挙	第1回	164	決選	62
2007年	大統領選挙	第1回	202	決選	89
2011年	大統領選挙	第1回	87	決選	69
2015年	大統領選挙	第1回	77	決選	70
2019年	大統領選挙	第1回	84	決選	87
2023年	大統領選挙	第1回	90	決選	87

〔注〕1990年以降の大統領選挙の際には国会議員選挙、地方選挙も同時に実施

（出所）米州機構（OAS）データベース

（<https://www.oas.org/eomdatabase/default.aspx?lang=es>  
2024年1月25日最終閲覧）をもとに筆者作成

挙に関して選挙監視員の派遣要請やその受諾を記す文書が残されてはいるものの、具体的な活動内容や規模についてはよく分からない。

グアテマラで選挙監視活動が本格化するの、1995年選挙以降のことであるといえる。このころにはOASは選挙監視活動を民主主義支援の重要な柱に据えるようになっており、その原則は2001年9月に採択された「米州民主主義憲章」（Carta Democrática Interamericana）の第5章に明記されることになった。その後2005年に、国連などと連名で、「国際選挙監視の原則に関する宣言と国際選挙監視員の行動規範」を発出したのは先述のとおりである。なお、2007年選挙でOASがグアテマラに派遣した選挙監視団は現在までのところ、同国では最大規模である。

9 OASの選挙監視活動に関する次のデータベースを参照。<https://www.oas.org/eomdatabase/default.aspx?lang=es>（2024年1月25日最終閲覧）。なお、このデータベースでも、もっとも古い記録は1962年2月のコスタリカ大統領選挙である。



## （２）2007年のOASグアテマラ選挙監視団

米州民主主義憲章第5章の第24条には、選挙監視団は選挙実施国からの招請に基づいて派遣が決定され、受入れ国は選挙監視員の安全を保証すると定められている。2007年グアテマラ選挙に関しては、まず2006年10月にグアテマラ政府からOASに選挙監視団の派遣が要請され、それに基づいて選挙公示日である2007年5月2日にガルシア＝サヤン（Diego García-Sayán）ペルー元外相を代表とする選挙監視団が設置された。これに前後して5月1日にはOAS事務総長と駐OASグアテマラ大使との間で「選挙監視員の免責特権に関する合意」（Acuerdo Relativo a los Privilegios e Inmunidades de los Observadores）が、5月3日にはガルシア＝サヤン代表とグアテマラ最高選挙管理委員会（TSE: Tribunal Supremo Electoral）委員長の間で「選挙監視活動遂行に関する合意」（Acuerdo Sobre el Procedimiento de Observación de las Elecciones）が交わされた（OEA 2009: 1）。

これ以降、OASの選挙監視団は6ヵ月強にわたり、グアテマラ国内で活動を展開した。長期監視員はOAS選挙監視・協力部（DECO: Departamento para la Cooperación y Observación Electoral）から派遣された要員によって編成され、法制度、選挙管理当局の執務、有権者登録、各政党や候補者の資金管理や選挙運動、治安情勢を含む政治全般の情勢、メディアの報道などについて、DECOが2006年に策定した選挙監視実施基準に基づいて監視活動を行った。また7月末からは県担当調整官22名が国内各地に展開し、さらに8月12日から9月2日までの間に漸次、各国の監視員が監視団に加わって、約100人規模の体制になった（OEA 2009: 3）。そして選挙期日前後の約1週間には、第1回投票（9月9日）ではOAS加盟国17ヵ国、招待国9ヵ国から集まった計202人の、決選投票（11月4日）では19ヵ国89人の選挙監視員が投票プロセスの監視に従事した。なお、第1回投票に監視員を派遣した招待国はオーストリア、韓国、デンマーク、中国（中華人民共和国）、スペイン、フランス、日本、ノルウェー、スイスであった。

OAS選挙監視団は事後に、本文44ページと付属資料（監視団が監視期間中に発出した声明など）からなる全112ページの最終報告書（OEA 2009）を取りまとめている（2009年2月9日に事務総長から公式に発出）。OASは、2007年グアテマラ選挙は全体としては平穏かつ公正に進められ、選挙参加の向上もあり、民主的なものであったと高く評価した。そのうえで、治安、政党や選挙運動の資金、メディアの報道の公平性に関するいくつかの問題点（詳細は後

述)とその解決のための提言を提示している。なお、OAS監視団は第1回投票や決選投票の投票時間中、投票箱閉鎖の直後、そして投票日の翌日の段階でプレスリリースを発出している。また9月26日にはガルシア＝サヤン代表の名で第1回投票に関する報告書(OEA: 2007a)、11月11日には決選投票に関する報告書(OEA: 2007a)を発出している。最終報告書は、そこで表明されていた見解や評価を踏襲したものとなっている。

### 3. 投票日当日の選挙監視活動と垣間見られたグアテマラ政治の特徴

#### (1) OAS監視団における監視業務

OASの最終報告書によれば、選挙当日の状況は具体的には次のとおりであった。すなわち、各地に派遣された監視員からの報告を集約すると、第1回投票では、午前7時に定められていた投票開始が技術的理由で若干遅れた投票所がいくつかあったものの、全体として投開票プロセスは円滑に進んだ。約50%の投票所で有権者が長蛇の列を作るとの問題はあったが、95%の投票所で投票の秘密は守られており、暴力的事態はいっさい観察されなかった。有権者登録に関わる問題(たとえば投票所の間違い)などで投票を拒まれた人が21%の投票所で、また有権者に干渉する行為が2%の投票所で観察されたが、選挙監視員による選挙プロセス全体に対する総合評価は、「たいへん良い」が47%、「良い」が53%であり、「悪い」、「たいへん悪い」はなかった。

選挙監視員一人ひとりが観察できることはきわめて限定されており、その内



写真3 投票所の前で長蛇の列をつくる有権者(筆者撮影)

表4 OAS グアテマラ選挙監視団での選挙監視業務（2007年9月：筆者の場合）

9月5日	水	東京発／グアテマラ市着
9月6日	木	打合せ（在グアテマラ日本大使館）
9月7日	金	OAS事前研修（ブリーフィング） グアテマラ市からアンティグアへ移動
9月8日	土	担当地域視察 ・チマルテナンゴ県所管警察署訪問 ・チマルテナンゴ県選挙管理委員会訪問 ・担当地域の状況視察 OASチマルテナンゴ県担当監視員のミーティング
9月9日	日	選挙監視 ・11カ所の投票所を巡回し、投開票プロセスの監視
9月10日	月	報告書の作成 OASチマルテナンゴ県担当監視員のミーティング アンティグアからグアテマラ市へ移動
9月11日	火	グアテマラ市発／ダラス着
9月12日	水	ダラス発
9月13日	木	東京着

（出所）筆者作成

容は全体の傾向を何ら代表しない。そのことに留意したうえで筆者自身の所感をあえて記すなら、筆者の体験はこのOASの報告書の内容とおおむね一致している。やや細部にわたるが、選挙監視活動の経験を記録にとどめ蓄積しておくのは大切なことのように思われ、以下に記しておきたい。

筆者は日本国外務大臣からの委嘱のかたちでOAS選挙監視団の一員に加わった。日本から参加したのは4人で、筆者以外の3人は在グアテマラ日本大使館の関係者2人、本省の中南米局中米課（現中米カリブ課）事務官1人であった<sup>10</sup>。委嘱期間中の筆者の活動は表4のとおりである。筆者は9月5日の夜に首都のグアテマラ市に到着し、翌6日には日本大使館で打合せを行い、7日にはOASの事前研修に出席した。そして同日午後、担当地域に割り当てられたチマルテナンゴ（Chimaltenango）県に隣接するサカテペケス（Sacatepéquez）県のアンティグア（Antigua）市に移動し、そこを拠点に現場での活動を開始した。

チマルテナンゴ県の監視グループは7人で構成され、その国籍別内訳はメキシコ人（リーダーを務めた長期監視員）、カナダ人、ブラジル人、アルゼンチン人2人、そして日本人2人（筆者と中米課事務官）であった。日本人2人を

10 なお、決選投票では、日本からは1人（日本大使館員）がOAS選挙監視団に加わった。



写真4 OAS選挙監視団の事前研修（筆者撮影）

除く他の5人はすでに数週間前からアンティグアを拠点に監視活動に従事していたため、現地入りした翌日の8日（投票日の前日）には、筆者ら2人がメキシコ人リーダーとともにチマルテナンゴ県の選挙管理委員会と同県を所管する警察署を往訪して挨拶、簡単な情報交換などを行った。なお、この移動には在グアテマラ日本大使館の公用車とOASの借上げ車の2台を使用した。続いて同日午後には、チマルテナンゴ県のグループの最終的な打合せの会合に出席した。

選挙当日は当初は4班に分かれて業務に当たる予定であったが、OAS借上げ車のやり繰りに問題が生じたため、3班に分かれて活動することに変更になった。これにともない、筆者はカナダ人の監視員、中米課の事務官とともに3人で日本大使館の公用車を利用し、町から町への移動は行動をともにし、各地区に到着後は、それぞれが別々の投票所で監視活動に従事した。

筆者が訪問したのは表5のとおり、8市（comuna）の計11カ所の投票所である。各投票所にはおおむね30分以上を目安に滞在することになっていた。訪問する市の選定は、チマルテナンゴ県を担当する監視員の打合せで示されていたリーダーの提案におおむね従い、具体的な投票所の選定は現場で行った。なお、投票時間は午前7時から午後6時までであったが、投票所の設置、および投票箱閉鎖後の開票作業の監視を行うことになっていたため、ホテルを出発したのは午前5時30分、帰着したのは午後11時過ぎとなった。

OAS監視団からは各監視員に対し、次の5種類の調査用紙が渡されていた。すなわち、①投票所設置と投票開始（1カ所）に関する調査用紙、②午後1時ころ時点での投票状況（1カ所）に関する調査用紙、③開票作業（1カ所）に

表5 OAS グアテマラ選挙監視団での選挙当日の訪問投票所（2007年9月：筆者の場合）

	地区	投票所	投票受付 所番号
1	サンタ・アポロニア (Santa Apolonia) 市	Salón Municipal	3794
2	サン・ホセ・ポアキル (San José Poaquil) 市	Salón Municipal	3682
3	テクパン・グアテマラ (Tecpán Guatemala) 市	Salón Municipal	3832
4	パスン (Patzun) 市	Gimnasio Municipal	3897
5	パスン (Patzun) 市	Escuela Oficial Urbana Mixta Felipa López	3856
6	サンタ・クルス・バランジャ (Santa Cruz Balanyá) 市チマサット (Chimazat) 村	CEM Aldea Chimazat	3953
7	テクパン・グアテマラ (Tecpán Guatemala) 市セニマフユ (Xenimajuyú) 村	CEM Aldea Xenemajuyu	3826
8	サンタ・クルス・バランジャ (Santa Cruz Balanyá) 市	Salón Comunal	3949
9	コマラパ (Comalapa) 市	Salón Municipal	3764
10	エルテハル (El Tejar) 市	Instituto de Educación Media por Cooperativa	4072
11	チマルテナンゴ (Chimaltenango) 市	Colegio Evangélico América Latina	3605

(出所) 筆者作成

関する調査用紙、④投票日の全体状況に関する調査用紙、⑤訪問した全投票所についてその状況を記入する調査用紙（1枚の表にまとめられたもの）である。そして、①については午前9時から10時の間に、②については午後2時から3時の間に、携帯電話で監視団内の担当係に対して口頭でも報告するように指示されていた。筆者は、①についてはサンタ・アポロニア市、②についてはテクパン・グアテマラ市セニマフユ村における状況を報告した。

それぞれの用紙に記入が求められていたのは、たとえば「投票の秘密が守られているか否か」といったような、イエスかノーで回答する10数項目であった。これに加えて一部の自由記述欄が設けられていた。上記①～⑤の用紙は、清書後、翌10日にリーダーに提出した。この他、リーダーは担当県の全体状況を所定の用紙にてOASに報告することとされており、10日午前、その用紙のコピ



ーがリーダーから電子メール経由で各監視員に渡され、各々の観察や感想を記入するよう求められた（リーダーが後にそれを取りまとめて1通の報告書にするとのことであった）。そして同日、チマルテナンゴ県担当の監視員の最後のミーティングが行われ、実質的な監視業務が終了した。

筆者が観察した範囲での所感を述べると、全体の投開票プロセスはおおむね順調であった。問題点を指摘するとするなら、一部の投票所において長蛇の列がつくられ、苛立った群衆と投票所の管理者との間で若干の押し問答があったこと、また一部の投票所においてスペースがあまりにも手狭である、あるいは照明が切れていて暗いといったことがあった。また、ある投票所では、何らかの理由により大統領選用の投票箱に数枚の国会議員選などの投票用紙が投票されているという気になる事例もあった（投票箱は透明なビニール袋でできており、また投票用紙は選挙別に色分けされているので、誤投票は容易に観察可能であった）。ただ、投票の秘密の確保、安全の確保、投票用紙をはじめとする各種設備や用品の完備、選管担当者の所在、主要政党の立会人の所在など、選挙の公正性に関わるもっとも根本的な点に関しては、問題となる事例は目撃しなかった。

開票プロセスに関し、筆者の監視した投票箱でたまたま、誰に投票したのかの判断に困る投票用紙が2枚あり、その処理をめぐり、選管担当者と政党立会人、および政党立会人同士の間で論争になった（陰悪なものではなかったが、意見が真っ向から対立し、若干の緊迫感があった）。結局、申し立て（impugnación）



写真5 混雑する投票所の光景（筆者撮影）

票はテーブルの下に設置された透明のビニール袋に投じられる

が出たものとして上位の選管に判断を仰ぐ票とするとの扱いになったが、それに関する書類記入に要した時間を含め、これだけで30分程度もの時間を費やすことになった。なお、以上の一連の観察事項は、所定の用紙に記入し監視団にも報告した。

## (2) 監視活動で垣間見られたグアテマラ政治の特徴

グアテマラの政党政治は弱体で、またクライエンティリズムが根強い。また先述のとおり、地方政治が政治の主たる闘争の舞台として定着しており、市民にとっても大きな関心事となっている。そうしたグアテマラ政治の特徴を、筆者も選挙監視活動を通じて垣間見ることとなった。

表6は筆者の担当地域の1つであった県都チマルテナンゴ市の選挙結果である。大統領選や国会議員選で1位と2位を占めたUNEとPPの得票率が、市長選ではガタッと落ち、これに代わってコミテ・シビコという選挙用の地域組織に多くの票が集まっている<sup>11</sup>。これらの組織は、地元有力者の集票マシンである場合が多いようである。なお、全国で候補者を擁立したコミテ・シビコは計134であった(OEA 2009: 25)。表7のとおり、そのうちチマルテナンゴ市を含む19市でコミテ・シビコが、市長選での勝利を果たしている。

地方政治への関心の高さは白票率のデータからも窺える。つまり、表6のとおり、チマルテナンゴ市の場合、大統領選や議会選での白票率は4%台から8%台にのぼるが、市長選のそれは0.93%にすぎないのである。筆者が開票を見守った投票所でも、大統領選や議会選の開票作業は淡々と進んだ。しかし市長選の開票作業になるとにわかに熱気を帯び、投票マークが欄外にはみ出しているといった紛らわしい用紙の扱いをめぐり、選管スタッフや各党の立会人の間で白熱した議論があった。図2はグアテマラ市民がどの組織を信頼しているかを示したものである。「信頼」の意味はともかく、「市役所」(municipalidad)は政党や国会とは対照的に、市民にとってもっとも大切な組織となっている。

こうした地方政治の特徴は、グアテマラで政党というものが個人の離合集散で成り立ち、国家レベルでの組織化の度合いが弱いことにも関係している。

11 コミテ・シビコの正式名称はComité Cívico Electoralで、選挙・政党法の97～114条に規定されている。選挙の際に結成が認められている準政党的な組織で、選挙後は自動的に解散となる。チマルテナンゴ市で得票率39.91%を獲得したコミテ・シビコCCIHMSの正式名称はComité Cívico Independiente Hombres y Mujeres de a Sombreroである。



2007年選挙で与党となったUNEは、表8にあるとおり、その議席数を解散前の30から52に伸ばした。しかし詳細にみると、UNEは32議席を獲得した2003年選挙から2007年選挙直前までの間に、15人が離党し13人が入党して議席を横ばいに維持してきたのである。こうした状況は他党も変わらず、4年間の任期中、158人中じつに68人もの議員が途中で所属政党を変えている。グアテマラではきわめて日和見的で機会主義的な政治家の行動パターンがある。

表6 チマルテンango市の選挙結果（2007年9月11日）

	大統領		国会 (全国区)		国会 (地方区)		市長・ 市会議員	
希望国民連合 (UNE)	7,907	32.12%	5,453	24.36%	5,871	25.64%	792	3.23%
愛国党 (PP)	6,399	25.99%	3,926	17.54%	4,120	17.99%	1,149	4.68%
国民大同盟 (GANA)	3,350	13.61%	3,308	14.78%	3,542	15.47%	5,962	24.29%
社会行動センター (CASA)	3,187	12.95%	2,117	9.46%	2,663	11.63%		
グアテマラ共和戦線 (FRG)	1,424	5.78%	2,211	9.88%	2,012	8.79%	330	1.34%
グアテマラのための出会い (EG)	1,285	5.22%	2,278	10.18%	1,189	5.19%	343	1.40%
統一党 (PU)	219	0.89%	552	2.47%	507	2.21%	322	1.31%
グアテマラ国民革命連合 (URNG-MAIZ)	213	0.87%	450	2.01%	448	1.96%		
国家主義変革連盟 (UCN)	209	0.85%	193	0.86%	234	1.02%		
国民進歩党 (PAN)	173	0.70%	633	2.83%	819	3.58%		
グアテマラ・キリスト教民主党 (DCG)	79	0.32%	223	1.00%	111	0.48%		
新国民同盟 (ANN)	75	0.30%	240	1.07%	224	0.98%		
民主連盟 (UD)	67	0.27%	215	0.96%	302	1.32%		
真正統合発展 (DIA)	31	0.13%	130	0.58%	165	0.72%	82	0.33%
民主主義のための戦線 (EL FRENTE)			452	2.02%	695	3.03%		
コミテ・シビコ CCIHMS							9,797	39.91%
コミテ・シビコ CH'ICH'							2,960	12.06%
コミテ・シビコ C.H.E.							2,303	9.38%
コミテ・シビコ U.P.C.H.							507	2.07%
有効投票	24,618		22,381		22,902		24,547	
白票	1,112	4.18%	2,356	8.84%	1,921	7.21%	248	0.93%
無効票	872	3.28%	1,912	7.17%	1,808	6.79%	1,820	6.84%
全投票数	26,602		26,649		26,631		26,615	
有権者数	37,509		37,509		37,509		37,509	

[注] 各党の%は有効投票に占める割合、白票と無効票の%は全投票に占める割合

(出所) 最高選挙管理委員会 (TSE) 暫定発表 (2007年9月11日) をもとに筆者作成

表7 2007年グアテマラ市長選挙結果

	当選者数	得票率 (%)
希望国民連合 (UNE)	102	30.72
国民大同盟 (GANA)	78	23.49
愛国党 (PP)	39	11.74
グアテマラ共和戦線 (FRG)	24	7.20
統一党 (PU)	23	6.90
国民進歩党 (PAN)	13	3.91
国家主義変革連盟 (UCN)	12	3.61
グアテマラ国民革命連合 (URNG-MAIZ)	8	2.40
民主連盟 (UD)	4	1.20
真正統合発展 (DIA)	3	0.90
新国民同盟 (ANN)	2	0.60
民主主義のための戦線 (EL FRENTE)	2	0.60
グアテマラのための出会い (EG)	1	0.30
グアテマラ・キリスト教民主党 (DCG)	1	0.30
社会行動センター (CASA)	1	0.30
コミテ・シビコ	19	5.72

(出所) OAS 選挙監視団最終報告書 (元出所は最高選挙管理委員会 [TSE] 公式発表) をもとに筆者作成

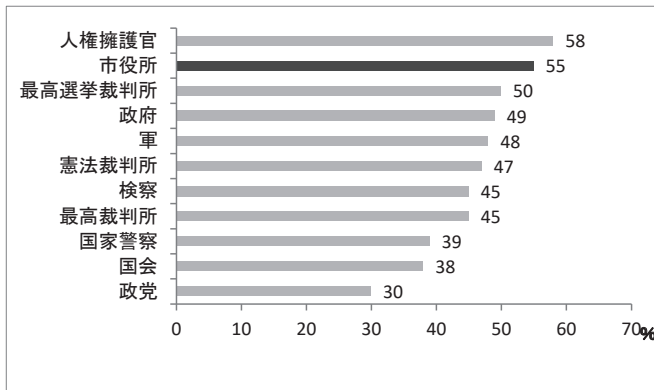


図2 各組織に対するグアテマラ市民の信頼度 (2004年調査)

(出所) Instituto Interuniversitario de Estudios (2005) *Perfil de gobernabilidad de Guatemala*, Salamanca: Ediciones Universidad Salamanca, p.94.

表8 グアテマラ国会の政党別議席の推移（2003年・2007年選挙結果と議員の政党移籍）

	2003年選挙 当選者数	議員の政党移籍		2007年 6月時点	2007年選挙 当選者数
		離党者数	入党者数		
グアテマラ共和戦線（FRG）	43	16	2	29	14
国民大同盟（GANA）	32	13	5	24	37
希望国民連合（UNE）	32	15	13	30	52
国民進歩党（PAN）	17	9	8	16	3
愛国党（PP）	10	4	12	18	29
統一党（PU）	7	2	0	5	6
新国民同盟（ANN）	6	4	1	3	－
改革者運動（MR）	5	4	0	1	－
民主連盟（UD）	2	1	1	2	1
グアテマラ国民革命連合（URNG-MAIZ）	2	0	2	4	2
グアテマラ・キリスト教民主党（DCG）	1	0	0	1	－
真正統合発展（DIA）	1	0	0	1	－
国家主義変革連盟（UCN）	－	－	11	11	5
グアテマラのための出会い（EG）	－	－	2	2	4
国民福祉（BIEN）	－	－	1	1	－
無所属	－	－	10	10	－
社会行動センター（CASA）	－	－	－	－	5
合計	158	68	68	158	158

（出所）ASIES（2007）*Guatemala: Proceso electoral 2007, información y datos básicos (Datos revisados, corregidos y actualizados al 31.08.07)*, Guatemala: ASIES, p.8. に加筆修正

### （３）暴力の問題

先述のとおり、暴力は市民の最大関心事であり、2007年の選挙プロセス上の大きな懸案事項となっていた。表9は選挙監視活動を展開した国内団体である「選挙ウォッチャー」（Mirador Electoral）がまとめた、2007年の選挙戦期間中に発生した現職政治家や候補者、その家族や側近に対する暴力事案である。じつに政治家51人を含む計58人もの関係者が殺害されており、この他に怪我を負わされた人や脅迫を受けた人も数多くいる。もっとも、どこまでが政治的動機による暴力であるのかは判然としていない。OAS監視団は選挙ウォッチャーよりはやや控えめな数字を提示しており、第1回投票までの選挙戦期間中に殺害された政治家やその家族は26人であり、決選投票の選挙戦期間中には犠牲者はなかったとする。また犠牲者の所属政党に偏りはなく、主要5党（UNE、

表9 2007年グアテマラ選挙戦期間中の暴力の被害（2006年3月2日～2007年11月3日）

		第1回投票までの期間			第1回投票から決選投票までの期間			合計
		政治家/ 候補者	支援者/ 親族	小計	政治家/ 候補者	支援者/ 親族	小計	
殺人	銃殺	42	4	46	6	1	7	53
	刺殺	2		2				2
	絞殺	1	2	3				3
	小計	45	6	51	6	1	7	58
傷害	銃器	10	9	19	1	3	4	23
	ナイフ	1		1				1
	小計	11	9	20	1	3	4	24
脅迫	殺害	15		15	3		3	18
	襲撃	12	11	23		2	2	25
	小計	27	11	38	3	2	5	43
犯罪	襲撃	12		12		1	1	13
	誘拐未遂	1		1				1
	小計	13		13		1	1	14
合計		96	26	122	10	7	17	139

（出所）Mirador Electoral（2007a）に一部補正（Webサイト掲載情報、アドレスは記録漏れのため不明、2008年3月3日最終閲覧）

PP、EG、GANA、FRG）のすべてに被害が及んでいるとする。OAS監視団はこの26件の殺人事件について検察（Fiscalía General）と国家文民警察（PNC）に情報提供を求めたが、検察からはそのすべてが選挙とは無関係の非政治的なものであるとの回答が寄せられた。OAS監視団は、検察に十分な人的・資金的資源がないことも問題点として指摘している（OEA 2009: 16-17）。

安全の確保は監視団全体でも主要な関心事の1つになっていた。筆者の場合、担当地域内にあるサラゴサ（Zaragoza）市において投票日の直前、投票に行く者を襲撃することをほのめかす脅迫文が撒かれるとの情報に接しており、この事案は新聞でも報じられていた<sup>12</sup>。我々は念のため、同市の訪問は避け、幹線道路から谷間に広がるこの街を遠目に眺めるにとどめたが、投票は無事に終了したようであった。

#### 4. 国際監視団と国内監視団の貢献と役割分担

##### (1) 選挙結果の尊重に関する政党間合意の仲介

選挙監視団は中立・不介入を原則としているが、その基本の原則を堅持したうえで、民主的な選挙の実現を目的としてより踏み込んだ働きかけを行うことがある。2007年グアテマラ選挙でも、OASの選挙監視団は選挙6日前の9月3日、選挙に参加している全17政党が「グアテマラ市民への約束」(Compromiso Ante los Ciudadanos Guatemaltecos)<sup>13</sup>と題する合意を締結することを積極的に仲介した。この政党間合意は、選管当局が発表した投票結果を唯一のものとして全面的に尊重することを誓約するもので、合意文書には17政党の代表とともに後援者(auspicio)との立場でガルシア＝サヤンOAS選挙監視団代表も署名している。

この合意が締結されたことの背景には次のようなことがあった。すなわち、第1に、暴力の横行が公正な選挙の実現を阻害することへの懸念があった。第2に、投票所の数が大幅に拡大され、また新規に登録した有権者が多く生まれ、各有権者がどの投票所で投票できるかを把握しておらず、大きな混乱につなが



写真6 選挙前日の地方選管事務所前の光景(筆者撮影)

入り口には「投票所の場所はこちらで質問してください」とのポスターが貼られている

12 La Hora, “Tensa calma; Precede a las Elecciones, Especialmente en Municipios,” 8 de septiembre de 2007. (<http://www.lahora.com.gt/> 2008年3月5日最終閲覧)

13 文書(署名を含む)のコピーは次に掲載されている。OAS (2009) pp.63-65.

ることへの懸念があった。OASの監視団も、有権者への周知が不十分であると判断し、選管当局に広報拡大へのさらなる努力を働きかけていた（OEA 2009: 27）。第3に、選挙結果を承認するか否かをめぐって論争が生じることへの懸念があった。選挙戦は終盤に近づくにつれペレス＝モリナがコロムを急激に追い上げ、一部の世論調査では両者の支持率が逆転する（Mack 2008: 20）など、蓋を開けてみるまで勝敗が分からないという緊迫した状況にあった。

OASは最終報告書の最後の部分で、コロムの勝利に祝意を表するとともに、ペレス＝モリナが最高選挙管理委員会（TSE）から発表された選挙結果をすぐに受け入れたことに言及し、その行動を評価している（OEA 2009: 43）。「グアテマラ市民への約束」が締結され、またそれが広く報じられたことで（OASもこの点でメディアの果たした役割を評価している）、社会全体で広くTSEの発表を尊重する空気が醸成されていたといえる。

なお、第1回投票の際、いくつかの場所では投票箱が焼き討ちされるなどの事態が生じ、アルタ・ベラパス（Alta Verapaz）県のトゥクル市（Tucurú）市とソロラ（Sololá）県のサン・マルコス・ラ・ラグナ（San Marcos La Laguna）市では市長・市会選挙が無効となって、大統領選の決選投票の際にその再投票が行われた。これらは散発的な事案ではあったものの、地方政治の場での政治闘争の過熱、そして暴力の横行という、グアテマラ政治の根深い問題が顕在化したといえる。OAS監視団は第1回投票後に出した9月26日付報告書で、「暴力」を「グアテマラ国が解決すべき深刻な問題」（OEA 2007a: 3）と指摘している。

## （2）国内選挙監視団とクイック・カウント

ところで、選挙監視団にとっては投開票プロセスのすべてを見届けることが理想であるが、当然のことながら展開できる監視員の数には限界がある。そしてこれには予算の問題も関わっている<sup>14</sup>。そうしたなか、国内団体の選挙ウォッチャー（Mirador Electoral）が国土の隅々まで大規模な選挙監視活動を展開し、クイック・カウントを行って選挙の公正性を確認したことは、選挙結果の

14 OASは2007年グアテマラ選挙監視団の活動に資金協力をした国としてブラジル、カナダ、韓国、スペイン、米国、日本、ノルウェー、ペルー、中国（中華人民共和国）の名（アルファベット順）をあげ、謝意を表明している（OEA 2009: 44）。なお、日本は草の根・人間の安全保障無償資金協力として約8万6000ドルを供与した。また本文中で言及したとおり、日本は選挙監視活動の実施のために大使館の公用車（運転手も大使館の現地職員）を利用することについても便宜を図った。

客観的な信頼性を高めることに大きく貢献した。

選挙ウォッチャーは政治的に中立な立場をとる国内の次の5団体、すなわち、市民活動10 (Acción Ciudadana10)、開発・組織・サービス・社会文化研究協会 (DOSES: Asociación para el Desarrollo, Organización, Servicios y Estudios Socioculturales)、ラテンアメリカ社会科学研究所 (FLACSO: Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales)、中米政治研究所 (INCEP: Instituto Centroamericano de Estudios Políticos)、マヤ文化研究所 (CECMA: Centro de Estudios de la Cultura Maya) が立ち上げた連合体である (OEA 2009: 30)。選挙ウォッチャーは一連の選挙プロセスを長期的に監視するとともに、投開票日には4000人にもものぼる選挙監視員を全国すべての市 (332市) に派遣した。そして全国に2060あった投票所のうちの1376カ所で、開票作業を見守りつつ独自に票を集計して選管による公式発表と照らし合わせる、クイック・カウントと称されるサンプル調査を実施した。

表10はそのクイック・カウントの結果である。この表ではサンプル調査の対象となった1376カ所のうち、投票日未明の9月10日午前2時15分時点で収集で

表10 Mirador Electoralによる2007年グアテマラ大統領選挙のクイック・カウント

	クイック・カウント	選管暫定発表	数値の差
希望国民連合 (UNE)	28.10%	28.23%	-0.13%
愛国党 (PP)	23.80%	23.51%	0.29%
国民大同盟 (GANA)	17.00%	17.23%	-0.23%
社会行動センター (CASA)	7.70%	7.45%	0.25%
グアテマラ共和戦線 (FRG)	7.40%	7.29%	0.11%
グアテマラのための出会い (EG)	3.20%	3.09%	0.11%
統一党 (PU)	3.10%	2.92%	0.18%
国家主義変革連盟 (UCN)	3.00%	3.16%	-0.16%
国民進歩党 (PAN)	2.30%	2.56%	-0.26%
グアテマラ国民革命連合 (URNG-MAIZ)	2.10%	2.14%	-0.04%
民主連盟 (UD)	0.80%	0.76%	0.04%
新国民同盟 (ANN)	0.60%	0.59%	0.01%
真正統合発展 (DIA)	0.50%	0.57%	-0.07%
グアテマラ・キリスト教民主党 (DCG)	0.50%	0.50%	0.00%

(出所) Mirador Electoral (2007b) *Informe sobre el desarrollo y resultados del Día de las Elecciones (9 de septiembre de 2007): Balance de resultados y principales hallazgos*, Guatemala: Mirador Electoral, p.9.





写真7 開票作業の光景（筆者撮影）

きた1025ヵ所における大統領選挙の投票結果が、開票率99.51%の時点での最高選挙管理委員会（TSE）発表の暫定結果と比較されている。両者の数値はほぼ一致しており、これにより選管当局が公正に開票と集計を行っていることが確認されたのである。クイック・カウントは大規模に選挙監視員を動員しないとなしえないことであり、選挙ウォッチャーはOASなどの国際機関が果たしきれない役割を担うことになった。

なお、筆者が参加したOASの監視団でも、集計結果は公表されていないものの内部での参照用にクイック・カウントが行われていた。指定された数人（未確認ながら、国全体で42人と聞いた）の監視員が、指定された投票所でクイック・カウントを行い、その結果をOAS監視団に速報することとされていた。チマルテナンゴ県では1人がこれを行うよう指示されており、筆者を含むその他の6人は、任意の投票所での監視作業のみを行った。筆者も好奇心から、開票作業を注視して独自に票をカウントしてみた。選管担当者の集計結果と一致しており、正確な得票数が選管本部に報告されていたように見受けられた。

### （3）その他の国内・国際選挙監視団

2007年グアテマラ選挙に際しては、国内では4つの団体が選挙監視団を組織した。①選挙ウォッチャー、②議会系の人権監察院（Procuraduría de los Derechos Humanos）、サンカルロス大学（Universidad San Carlos de Guatemala）、大司教部人権室（Oficina de Derechos Humanos del Arzobispado）で構成される「連合」（La Coalición）、③先住民系の団体代表や有識者で構成される

「先住民選挙監視団」(Misión Indígena de Observación Electoral)、そして④経済団体連合会(CACIF: Coordinador de Asociaciones Agrícolas, Industriales, Comerciales y Financieras)である。OASはこれらの国内団体と何回にもわたる会合を重ね、それが上述の「グアテマラ市民への約束」の締結に結実したとしている(OEA 2009: 31)。

国際機構としては、欧州連合(EU: European Union / 西語表記はUE: Unión Europea)がクライゼル＝ドルフラー(Wolfgang Kreissl-Dörfler)欧州議会議員を代表とする選挙監視団を派遣し、2007年7月31日から監視活動を行った。第1回投票と決選投票の当日には、23のEU加盟国から派遣された合計111人の選挙監視員が国内22の県に展開した。なお、これら2回の投票日には、この他に7人の欧州議会議員もEUの監視団に加わった(UE 2007: 5)。訪問した投票所(投票受付所)の数は第1回投票で530、決選投票で550であった(UE 2007: 44-45)。

OAS、EU、そして選挙ウォッチャーの各監視団が公開している報告書(OEA 2009; UE 2007; Mirador Electoral 2007)には一致して、選挙が公正で平穏理に行われたとの包括的評価が示されている。そのうえで、これら主要3監視団が共通して指摘している重要課題としては、すでにふれた暴力の問題の他に、選挙資金の問題、そしてメディアによる報道の問題がある。

選挙資金に関しては、その透明性が欠けていることが問題点として指摘されている。各政党が選挙活動に運用している資金は、表11のとおり、非常に大きな差がある。選挙ウォッチャーは、UNE、GANA、PPの上位3党は法で定められた選挙資金の上限を超えた支出を行っており、その資金源も不透明であるとする(Mirador Electoral 2007b: 5)。各監視団からは、選挙資金の上限や選管当局への報告期間、最高選挙管理委員会(TSE)による監査協力の強化、罰則規定の見直しなどが提言されている。

メディアによる報道に関しては、その偏向性が問題点として指摘されている。また、法に違反して選挙当日に一部のメディアが世論調査(出口調査)を報道したことも問題視され、OAS監視団はメディアが法を遵守することを強く求めている(OEA 2009: 41-42)。

EU監視団が報告書で、女性と先住民の2つの問題について個別の章を設けて一定の紙幅を割いていることは、EUの個性を強く反映しているといえよう。2007年選挙で有権者が大きく拡大したこと自体は高く評価されたが、507万3282人の性別による内訳は、男性が282万0737人であるのに対し、女性は225万

表11 2007年グアテマラ選挙での選挙運動資金 (La Empresa Media Guru 調べ)

(単位：ケツァル)

	総費用	テレビ	ラジオ	新聞
愛国党 (PP)	42,850,024	6,751	24,598	31
希望国民連合 (UNE)	40,161,362	6,987	21,383	54
国民大同盟 (GANA)	38,908,127	5,866	16,148	81
国民進歩党 (PAN)	19,084,588	3,973	12,760	72
国家主義変革連盟 (UCN)	17,530,437	4,126	3,530	12
統一党 (PU)	13,595,736	2,663	10,160	16
グアテマラ共和戦線 (FRG)	13,303,248	1,766	7,689	8
新国民同盟 (ANN)	12,829,862	2,623	4,834	3
民主主義のための戦線 (EL FRENTE)	8,563,691	1,629	2,011	3
グアテマラのための出会い (EG)	3,955,542	1,352	351	4
グアテマラ国民革命連合 (URNG)	3,743,314	753	433	2
民主連盟 (UD)	2,354,684	672	0	1
計	216,880,615	39,161	103,897	287

(注) 1米ドル=7.62ケツァル (2006年平均：中銀)

(出所) *Prensa Libre*, 10 de septiembre de 2007, p.10.

2545人とどまっていた (OEA 2009: 18)。EU監視団は、当選した332人の市長のうち女性がわずか8人であること、女性国会議員の当選者が17人にすぎないこと、全投票に占める女性の割合は42.8%にとどまることを強調する (UE 2007: 41-42)。

先住民に関しては、EU監視団は次の点を指摘している (UE 2007: 42-43)。すなわち、国会議員選に擁立された先住民系の候補者は、EGが44人であったのが最多で、その他ではGANAが19人、UNEが17人とどまるなど、主要5党の753人の候補者のうち先住民系は107人を占めるにすぎなかった。当選したマヤ系の国会議員は、直近 (2003年) の15人からは増えたものの23人とどまった。また市長・市議会議員選挙においても、3700人の候補者のうち、先住民系は22%に当たる845人にすぎなかった。メンチュウの出馬は、各党が先住民問題に焦点を当てるきっかけとなり、各党の政策綱領に多民族、多文化、多言語という語が盛り込まれることにはなった。ただ先住民問題の政策として強調されたのは、農村開発であった。もっとも、多くの先住民リーダー自身が主たる政治的課題としてあげていたのも貧困問題であった。

なお、選挙ウォッチャーは、当選した国会議員のうち先住民系は15人である

との異なるデータを提示している。また、当選した市長（332市）のうち先住民系は129人であり、直近の123人から微増したとしている。選挙ウォッチャーは、個々の候補者・当選者による民族に関する自己定義が重要であり、それに基づいた検証が行われる必要があるともしている（Mirador Electoral 2007b: 6）。

## おわりに

1990年代の初頭以降、選挙監視活動の技術の向上、洗練化、体系化が進められ、それが一定の到達点に達したちょうどその時期に、2007年グアテマラ選挙とそれへの選挙監視活動が行われた。EUの選挙監視団も、2005年に発出された「国際選挙監視の原則に関する宣言と国際選挙監視員の行動規範」に基づいて選挙監視活動を実施したと言及している（UE 2007: 5）。2007年グアテマラ選挙では、中立・多国籍で認知度も高い国際選挙監視団と、国内の隅々にまで大規模に監視員を動員してクイック・カウントを効果的に遂行する能力を持った国内選挙監視団とが、相互の対話を重ねつつ、うまく補完し合いながらそれぞれの役割を果たした。2007年選挙で投票の便宜向上や有権者登録の拡大といった政治参加の水準向上があったことは、それ以前から積み重ねられてきた選挙監視団による助言や技術的支援の成果でもあった。「グアテマラ市民への約束」という政党間合意の締結にOASの監視団が積極的に関与したことも、選挙の成功に大きく寄与したといえる。

ただ、こうした努力が四半世紀以上にわたり継続されているにもかかわらず、グアテマラではいくつかの重大な政治的課題が今なお未解決のまま残っている。まず、選挙に関わる暴力の問題はまったく解消しないばかりか、2007年から2019年までの4回の選挙を通じて暴力事案はむしろ増加傾向にある（ASIES 2020:14）。2023年8月の大統領選では、反汚職を訴えるアレバロ（Bernardo Arévalo）が新興政党の種の運動（Movimiento Semilla）から出馬して6割近い得票率で当選したが、検察が既成政党の意を受けるかたちでアレバロ陣営を不正選挙のかどで家宅搜索し、選挙を無効とすることまで試み、国内外からクーデタの企てとして強く非難された<sup>15</sup>。

四半世紀に及ぶ継続的な選挙監視活動がなければ、グアテマラに制度としての民主主義が今ほどには根付いていなかったとみることもできよう。しかしながら、もしグアテマラの政治の場裏に真に民主主義の価値や行動規範を根付かせようとするなら、国際社会としての支援のあり方として従来の選挙監視とは

また別の方策が必要なのかもしれない。もちろん、2023年選挙に関しては、選挙監視活動を通じた国際社会の目があったからこそクーデタが阻止されたとの見方も成り立ちえようが、選挙監視の効果はどこまであるのか、その限界は何か、国際社会による民主主義支援はどのような枠組みで行われるべきなのか、さらに検討を深めていく必要があるだろう。

〔付記〕本稿は、2023年度科学研究費補助金（研究課題：国際選挙監視活動の機能と逆機能—何が民主主義を促進し何が民主主義を阻害するのか—、研究代表者：浦部浩之、研究課題番号：18K01477）による成果の一部である。

### 参考文献

- 浦部浩之（2008）「グアテマラにおける中道左派政権の誕生—米州機構（OAS）選挙監視団に参加して—」『ラテンアメリカ時報』51巻3号、12～20頁。
- 浦部浩之（2020）「権威主義体制下での選挙監視活動と2015年ベラルーシ大統領選挙—OSCE選挙監視団への参加もふまえて—」『マテシス・ウニウェルサリス』22巻1号、1～25頁。
- 狐崎知己（2007）「グアテマラにおける先住民族と政治参加」『ラテンアメリカ時報』50巻4号、13～16頁。
- ASIES (Asociación de Investigación y Estudios Sociales) (2007) *Guatemala: Proceso electoral 2007, Información y datos básicos (Datos revisados, corregidos y actualizados al 31.08.07)*, Guatemala: ASIES.
- ASIES (2020) *Análisis transversal de violencia electoral en las elecciones municipales en Guatemala (2007-2019)*, Guatemala: ASIES.
- Colom, Álvaro (2008) *Discurso: Toma de posesión 14 de enero del 2008*, Guatemala.
- Hyde, Susan D. (2011) *The Pseudo-Democrat's Dilemma: Why Election Observation Became an International Norm*. Ithaca: Cornell University Press.
- Instituto Interuniversitario de Estudios (2005) *Perfil de gobernabilidad de Guatemala*, Salamanca: Ediciones Universidad Salamanca.
- Mack, Luis Fernando (2008) El ocaso de los patriarcas: Un análisis de las elecciones de Guatemala de 2007. *Nueva Sociedad*, 213, pp.17-24.
- Middlebrook, Kevin J. (1998) "Electoral Observation and Democratization in Latin America," in Kevin J. Middlebrook (ed.) *Electoral Observation and Democratic Transitions in Latin America*, San Diego: Center for U.S.-Mexican Studies at University of California, pp.3-29.

- 
- 15 アレバロは2024年1月に大統領に就任するが、その直前まで検察による捜査があり、それへの国際的な批判は続いた。BBC Mundo, "Fiscales en Guatemala piden anular las elecciones presidenciales que ganó Bernardo Arévalo y la OEA denuncia "un intento de golpe de Estado", 8 diciembre 2023. (<https://www.bbc.com/mundo/articles/ce7prjp3x08o> 2024年1月26日最終閲覧)

- Mirador Electoral (2007a) *Violencia electoral del 2 de marzo de 2006 al 03 de noviembre de 2007*, Guatemala: Mirador Electoral.
- Mirador Electoral (2007b) *Informe sobre el desarrollo y resultados del Día de las Elecciones (9 de septiembre de 2007): Balance de resultados y principales hallazgos*, Guatemala: Mirador Electoral.
- OEA (2007a) *Informe de Diego García-Sayán, Jefe de la Misión de Observación Electoral de la OEA en Guatemala para las Elecciones Generales celebradas el 9 de septiembre de 2007*, Washington D.C.
- OEA (2007b) *Informe de Diego García-Sayán, Jefe de la Misión de Observación Electoral de la OEA en Guatemala, Segunda Vuelta Electoral del 4 de noviembre*, Washington D.C.
- OEA (2009) *Informe de la Misión de Observación Electoral: Elecciones Generales (9 de septiembre de 2007) y Segunda Vuelta Electoral Presidencial (4 de noviembre de 2007) República Guatemala*, Washington D.C.
- UE: Misión de Observación Electoral (2007) *Informe Final de las Elecciones Generales Guatemala*, Guatemala.
- (参考定期刊行物)
- Infopress Central America Report*. Guatemala.
- Latin American Regional Report: Caribbean & Central America*. London.
- Prensa Libre*. Guatemala.
- (参考ホームページ)
- BBC Mundo (<https://www.bbc.com/mundo>)
- Gobierno de Guatemala (<http://www.guatemala.gob.gt> | <https://guatemala.gob.gt/>)
- La Hora (<http://www.lahora.com.gt/> | <https://lahora.gt/>)
- Prensa Libre (<http://www.prensalibre.com> | <https://www.prensalibre.com/>)
- Tribunal Supremo Electoral (<http://elecciones2007.tse.org.gt/elecciones2007/>)

